

ケータイ&スマホ みんなで考えましょう

○インターネットのしくみを十分理解する必要があります。

- ・書き込みや投稿画像は、全世界の人に見られる。
- ・ネット上にいったん出た写真などは完全に削除することはできない。
- ・ネット上に匿名性はなく、必ず記録が残り、投稿者が特定される。
- ・他人に大きな損害を与え、罪に問われたり、多額の賠償を要求されたりすることがある。
- ・GPS機能がONで、写真等に位置情報が添付されたまま送信してしまうことがある。
- ・不特定の人物とつながり、犯罪被害に巻き込まれる危険もある。
- ・ウイルス感染により、遠隔操作や個人情報漏洩などのリスクをとまなう。…など



○ゲーム機や音楽プレーヤーの中には、ネットに接続できるものがあります。

○全国的に「ネットいじめ」、「ネット依存症」などの問題も起きています。

○勉強や家族とのくつろぎ、ひとりでゆっくり過ごす時間は十分ありますか？

○「今必要か？、本当に必要か？」 よく話し合うことが大切です。

昨今の情報化社会の進展の中で、利便性と引き換えに大切なものがどんどん失われていくことに憂いを感じています。私は、スマートフォンや携帯電話は小中学生のうちは持つてほしくないと考えています。成長過程の子どもたちは、年齢相応に経験したり身につけたりすべきことがたくさんあります。自然の中で遊んだり人と直接ふれ合ったりすることを通じて、自然への好奇心や理解・愛着、生命尊重、約束やルール、協力の大切さなど多くのことを学ぶものです。しかし、今、子どもたちは、コンピュータの描く仮想空間、機器を媒介とした人間関係など、枠で囲まれたような世界へ誘導されつつあるような気がして心配です。

携帯電話などの機器を介さなければコミュニケーションがとれない、何でもリセットできる仮想空間とそうでない現実との切り替えがうまくいかない、生命などかけがえのないものに対する認識や感覚の不足等々、私たちは大切な我が子をこのような方向に歩ませていないでしょうか。

また、便利さを享受するほど人間の能力は退化します。例えば、友だちに連絡するとき、家庭電話であれば相手の家族と話す必要があり、自ずと礼儀正しい応対や言葉遣いを学ぶこととなります。夕刻に外出先まで迎えにきてほしいとき、その時になって携帯電話で連絡するというのではなく、家を出るときに予め約束しておくなど先を見通して計画する力や段取る力も、便利な通信手段がないからこそ身につく力です。成長時期にある子どもたちの能力を伸ばすという面から、今の生活環境を改めて振り返ってみたいものです。

一方、子どもたち自身も通信機器などから逃れたいと思う場面もあるのではないのでしょうか。就寝時もメールが気になり携帯電話を離せない子どももいるそうです。家に帰ったら、友だち関係を一旦離れて、ゆっくりとひとりの時間や家庭団らんの時間を過ごす、こうしたやすらぎのひとつときを与えてやるのも大人のつとめではないでしょうか。

(平成25年12月 神原中 P T A 会報「大地」校長随筆より一部抜粋)